

特別展

# 犬派?猫派?

2024  
5/12 [日] → 7/7 [日]

\*会期中、展示替えあり。

前期 5/12(日)-6/9(日) 後期 6/11(火)-7/7(日)

主催：山種美術館、日本経済新聞社

一俵屋宗達、竹内栖鳳、藤田嗣治から山口晃まで一



竹内栖鳳《班猫》【重要文化財】

1924(大正13)年 山種美術館 [画像請求 No. ⑨]



長沢芦雪《菊花子犬図》18世紀(江戸時代)

個人蔵 [画像請求 No. ④]

近年、ペットブームがさらなる盛り上がりを見せています。中でも最も人に親しまれている動物、犬と猫は、古くから日本の絵画に描かれてきました。近代以降も、画家たちが自らの愛犬、愛猫をモチーフにした作品が少なくありません。このたび山種美術館では、犬と猫を題材とした名品をご紹介します。展覧会を開催します。

本展覧会にて初公開となる《洋犬・遊女図屏風》(個人蔵)は、当時、日本では珍しかった洋犬を描く貴重な作品です。琳派の祖・俵屋宗達《犬図》(個人蔵)には、振り返る子犬が水墨によって愛らしく表されています。伊藤若冲《狗子図》(個人蔵)では白と黒の2匹の子犬の対比が目を引き、長沢芦雪《菊花子犬図》(個人蔵)には、何とも可愛い子犬たちが表情豊かに描かれています。また、愛犬家で知られる川端龍子は、自らの愛犬ムクとモルをモデルに、《立秋》と《秋縁》(大田区立龍子記念館)を制作しました。一方、猫を描いた名作といえば、近代京都画壇を牽引した竹内栖鳳による《班猫》【重要文化財】(山種美術館)。静岡の沼津で偶然出会った猫に惹かれた栖鳳は、丹念な観察と写生を通して作品を完成させました。また、サインの代わりに猫を描くこともあるという藤田嗣治による《Y夫人の肖像》(株式会社三井住友銀行)は、女性と4匹の猫を描いた魅力的な作品です。さらに、現代作家・山口晃による《捕鶴圖》(山種美術館)は、擬人化された猫たちの個性までも描き出しています。

本展では、江戸時代の俵屋宗達、伊藤若冲、長沢芦雪、歌川国芳をはじめ、竹内栖鳳、西村五雲、西山翠嶂など、動物画を得意とする近代京都画壇の画家たち、そして小林古径、川端龍子、奥村土牛、速水御舟ら東京画壇を代表する画家たち、さらに藤田嗣治や現在活躍中の山口晃まで、犬と猫を題材としたバラエティに富む作品が一堂に会します。愛らしい犬と猫たちが皆さまのご来館をお待ちしています。



左：俵屋宗達《犬図》17世紀(江戸時代)  
個人蔵 [画像請求 No. ②]



右：伊藤若冲《狗子図》18世紀(江戸時代)  
個人蔵 [画像請求 No. ③]



川端龍子《立秋》1932(昭和7)年  
大田区立龍子記念館 [画像請求 No. ⑥]



藤田嗣治《Y夫人の肖像》1935(昭和10)年  
株式会社三井住友銀行 [画像請求 No. ⑩]

© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 X0224

## 本展のみどころ

### みどころ① 犬と猫を描いた名作が大集合！

初公開となる《洋犬・遊女図屏風》(個人蔵)をはじめ、江戸時代の俵屋宗達、伊藤若冲、<sup>まるやまおとこま</sup>円山応挙、長沢芦雪、歌川国芳、明治以降の竹内栖鳳、川端龍子、藤田嗣治、速水御舟、現在活躍中の山口晃など、多彩な画家たちによる犬と猫を題材とした名品が揃います。



《洋犬・遊女図屏風》  
17世紀(江戸時代) 個人蔵  
[画像請求 No. ①]



歌川国芳《山海愛度図会 七  
ヲいたい 越中滑川大蝸》  
1852(嘉永5)年 個人蔵  
[前期展示] [画像請求 No. ⑦]



川端龍子《秋緑》1947(昭和22)年  
大田区立龍子記念館



山口晃《捕鶴圖》2014(平成26)年  
山種美術館 [画像請求 No. ⑬]



神坂雪佳  
『百々世草』巻2より  
「狗児」  
1909(明治42)年  
芸艸堂  
[画像請求 No. ⑤]

### みどころ② ゆるかわアイドル犬&山種美術館のレジェンド猫 撮影チャンス！

大好評につき再登場のゆるかわ犬・長沢芦雪《菊花子犬図》(個人蔵)と、当館のレジェンド猫・竹内栖鳳《班猫》【重要文化財】(山種美術館)を、特別にご自身のスマホで撮影いただけます！

### みどころ③ 特集展示として、 菱田春草の初公開作品をはじめ、 貴重な花鳥画もご紹介！

菱田春草《柏二小鳥》(個人蔵)を本展にて初公開！横山大観《木兔》(山種美術館)や上村松篁《白孔雀》(山種美術館)など、花鳥画の名品もお見逃しなく！



菱田春草《柏二小鳥》20世紀(明治時代)  
個人蔵 [画像請求 No. ⑭] ※Web掲載不可

■展覧会名：【特別展】犬派？猫派？—俵屋宗達、竹内栖鳳、藤田嗣治から山口晃まで—

■会 期：2024年5月12日(日)～7月7日(日) ※会期中、一部展示替えあり(前期：5/12-6/9、後期：6/11-7/7)

■休 館 日：月曜日

■開館時間：午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■入 館 料：一般1400円(1200円)、大学生・高校生1100(1000)円、中学生以下無料(付添者の同伴が必要です)

※障がい者手帳、被爆者健康手帳をご提示の方、およびその介助者(1名)は1200円(1000円)、

上記のいずれかのうち大学生・高校生1000円(900円) ※()内は前売料金

きもの特典きものでご来館のお客様は、一般200円引き、大学生・高校生100円引き。 ※複数の割引・特典の併用はできません。

■主な出品作品(本文で紹介した作品を除く)：約60点(予定) ※所蔵表記のない作品は山種美術館蔵。 ※◇前期展示、◆後期展示、無印...全期間展示  
犬：伊藤若冲《子犬図》(個人蔵)、円山応挙《雪中狗図》(個人蔵)、喜多川歌麿《美人五面相 犬を抱く女》◆、西村五雲《犬》、西山翠嶂《狗子》、奥村土牛《戌年》、  
麻田辨自《薫風》、岩橋英遠《双狗》ほか 猫：歌川広重《浮世画譜》(芸艸堂)、歌川国芳《其まゝ地口猫飼好五十三疋》(個人蔵)◇、小林古径《猫》、  
奥村土牛《シャム猫》、速水御舟《翠苔緑芝》、國司華子《シロトリと三角とぐるぐる。》(作家蔵)ほか 花鳥：横山大観《木兔》、上村松篁《白孔雀》ほか

■会 場：山種美術館(〒150-0012東京都渋谷区広尾3-12-36)

■問い合わせ：050-5541-8600(ハローダイヤル 電話受付時間：9:00～20:00)

■公式 HP：<https://www.yamatane-museum.jp/>

■公式 SNS：  

※ 出品作品および展示期間は都合により変更される場合があります。 ※ 本展周知目的でない画像の利用や転載はお断りします。  
※ 本展周知で作品画像等の使用を希望される場合は、別途広報素材一覧をご参照いただくか、下記までお問い合わせください。

報道関係の方からの  
本件に関する  
お問合せ先

山種美術館広報事務局(ユース・プランニング センター内) / 担当：片山、平野、池袋  
〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町9-8 KN 渋谷3ビル4F

TEL：03-6821-8547

FAX：03-6821-8869

E-mail：[yamatane-pr@ypcpr.com](mailto:yamatane-pr@ypcpr.com)